

## 受賞者の声（公開）

氏名	山崎 剛士	
受賞時所属	(所属) 自然科学研究機構 生理学研究所	
	(職名) 助教	
現所属	(所属) 同上	
	(職名) 同上	
受賞テーマ	ヒトと動物に共通する慢性炎症性疾患の発症メカニズムの解明	
<b>受賞テーマにおける研究活動の現況</b>		
<p>炎症性腸疾患を一例に、ヒトと動物に共通する慢性炎症性疾患の発症メカニズムを解明し、動物の疾患研究から得られた成果をヒトの疾患研究・医療に還元することを目指して研究を進めています。現在、イヌの炎症性腸疾患研究で見つかったリスク遺伝子や標的分子を対象とすることに加え、ヒトと動物に共通して炎症制御に関与する神経-免疫連関を対象として、研究を進めています。特に、ヒトと動物の慢性炎症の初期段階において、免疫細胞が組織に浸潤するための侵入門戸の形成に、神経系と免疫系がどのように関与しているのかを明らかにしようとしています。</p>		
<b>今後における研究活動の展望</b>		
<p>多発性硬化症のモデルマウスを用いた研究で、脳の特定の神経回路を人為的に操作することで、腰髄の神経炎症を抑制できることがわかってきました。また、同モデルマウスにて、脳局所への免疫細胞の浸潤が瞳孔機能に影響を及ぼすことも明らかになってきました。このように、神経系が炎症反応を局所的に制御すること、また、局所の炎症が特定の神経機能を障害することのメカニズムが少しずつですが解明されてきています。今後は、これらのメカニズムを深掘するとともに、得られた知見を動物やヒトの医療研究へ応用していきたいと考えています。</p>		
<b>受賞後の反響・各賞の受賞等</b>		
<p>関連研究を学会や研究集会で発表すると、興味を持って話を聞きに来てくれる方が増えたように感じています。医学・生理学研究領域でも、動物とヒトに共通する疾患・メカニズムの研究への認知と理解が拡大してきたのかな、と期待しています。</p>		
<b>わかしゃち奨励賞への期待</b>		
<p>本受賞テーマのような領域を横断するような研究は、継続するのに時間と労力、気力を必要とします。また、境界領域の研究は社会に研究の重要性を理解していただくことがとても大切です。この度、わかしゃち奨励賞受賞という形で研究を公開する機会をいただきましたこと、研究を継続する勇気をいただきましたことに感謝申し上げます。今後も、若手研究者が未知の研究領域に足を踏み出すことを応援していただければと誠に幸いです。</p>		